

腹面が黄色のコガタノゲンゴロウ

佐野真吾¹⁾・苅部治紀²⁾・北野 忠³⁾・熊井 健⁴⁾・屋島典是⁵⁾

¹⁾〒 224-855 横浜市都筑区牛久保西 3-3-1 東京都市大学

²⁾〒 250-0031 小田原市入生田 499 神奈川県立 生命の星・地球博物館

³⁾〒 259-1292 平塚市北金目 4-1-1 東海大学教養学部人間環境学科

⁴⁾〒 905-0415 国頭郡今帰仁村 341-1 シャトータミナト 2-C

⁵⁾〒 243-0401 海老名市東柏ヶ谷 1-28-27-304

Records of *Cybister tripunctatus* with yellowish ventral surface

Shingo SANO, Haruki KARUBE, Tadashi KITANO, Ken KUMAI and Noriyuki YASHIMA

はじめに

コガタノゲンゴロウ *Cybister tripunctatus lateralis* (Fabricius, 1798) の腹面は、通常、暗赤褐色（以下通常色個体）であることが特徴とされている（森・北山, 2002）。また、國本（2014）では、本種の腹面の色調には連続した変化があり、黒赤色から黄赤色まであらわれるとされ、腹部の色調を5段階に区分している。しかし筆者らは、これまで記録にない腹面が黄色に近い色調をもつ個体（以下、黄腹面個体）を南西諸島および国外で確認している。これらの個体は、國本（2014）が示した色調の変異とはさらに異なり、ヒメフチトリゲンゴロウ *Cybister rugosus* (Macleay, 1825) のように後胸腹板および後基節が黄色である特徴を有している。また、神奈川県立 生命の星・地球博物館の阿部光典氏ゲンゴロウ類コレクションからも黄腹面個体を確認した。さらに、飼育下で繁殖させた個体の中からも黄腹面個体が確認されたので、これについても報告する。

筆者らが採集した黄腹面個体の記録

筆者らは、国内から8個体、国外から1個体の合計9個体の黄腹面個体を採集した。採集地は、国内では沖縄諸島の沖縄島、屋我地島および八重山諸島

の石垣島、西表島、与那国島であり、国外ではベトナム北部である。採集地では、いずれも腹面が黒色や赤褐色の通常色個体と共に得られた。個体数は少なく、同地において1個体以上は採集されなかった。なお、ベトナム北部で採集したものは、3地点で26個体を採集したうちの1個体であった。生息地保護のため、詳細な地名の公表をひかえる。

1♀, 石垣島, 9. VIII. 1994, 北野忠採集・保管; 1♀ (図3-E), 屋我地島, 4. IV. 2009, 熊井健採集・佐野真吾保管; 1♀, 沖縄島, 12. III. 2009, 屋島典是採集・保管; 1♂ (図1; 図3-A), 石垣島, 23. XI. 2010, 佐野真吾採集・保管; 1♀ (図3-C), 西表島, 16. XII. 2011, 佐野真吾採集・保管; 1♂ (図3-D), 西表島, 6. IX. 2013, 北野忠採集・保管; 1♀ (図3-F), 与那国島, 16. X. 2015, 苅部治紀採集・保管; 1♂ (図2; 図3-G), 与那国島, 9. XI. 2015, 北野忠採集・保管; 1♀, ベトナム北部, 8. V. 2015, 佐野真吾採集・保管。

阿部光典ゲンゴロウ類コレクションから確認された黄腹面個体

阿部コレクションは、阿部光典氏によって神奈川県立生命の星・地球博物館に寄贈された国内および



図1. 石垣島産の個体, 採集時の様子。



図2. 与那国島産の個体, 採集時の様子。

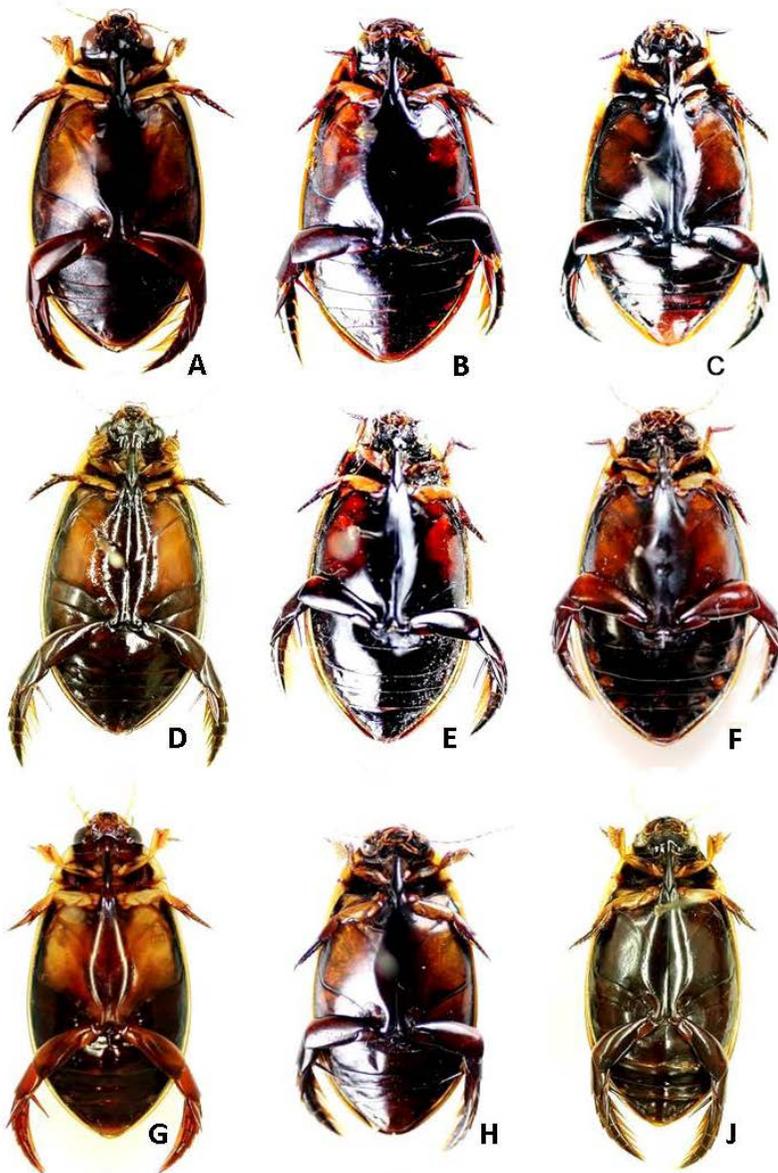


図3. 筆者らが採集した個体および阿部コレクションから確認された黄腹面個体. A, 石垣島産♂; B, 石垣島産♂(阿部コレクション 標本登録番号KPN-NK 025955); C, 西表島産♀; D, 西表島産♂; E, 屋我地島産♀; F, 与那国島産♀; G, 与那国島産♂; H, タイ産♂(阿部コレクション 標本登録番号KPN-NK 027481); J, 西表島産♂(通常色個体, 1994年9月8日, 北野忠保管).

び世界各国から収集されたゲンゴロウ類コレクションであり、479種 30,619点がデータベース化されている(高桑, 1995). しかし、データベース化がされていないコレクションも多数あり、実際には上記の点数以上の標本が保管されている. 阿部コレクションの中にコガタノゲンゴロウ *C. tripunctatus* とされる個体は日本産 23 個体、インドネシア産 53 個体、タイ産 92 個体、マレーシア産 13 個体、フィリピン産 274 個体、オーストラリア産 3 個体、パプアニューギニア産 1 個体、ポルトガル産 4 個体が保管されていた. これらの個体の腹面をすべて確認したところ、黄腹面個体は日本産に 1 個体、タイ産に

62 個体確認された. 阿部コレクションから確認した黄腹面個体は、いずれも後胸腹板および後基節が黄色であり、筆者らが採集した個体と類似した特徴を備えていた(図3). なお、東南アジアには黄腹面個体に類似した種で、*C. fumatus* Sharp, 1882 が分布している(Hendrich & Brancucci, 2013). 阿部コレクションの中にも *C. fumatus* は含まれており、本種黄腹面個体と混同して保管されていたため、標本が劣化し、外見での同定が難しい個体は雄交尾器を取り出して確認した. また、同定が困難であった雌は、一部除いて個体数をカウントした.

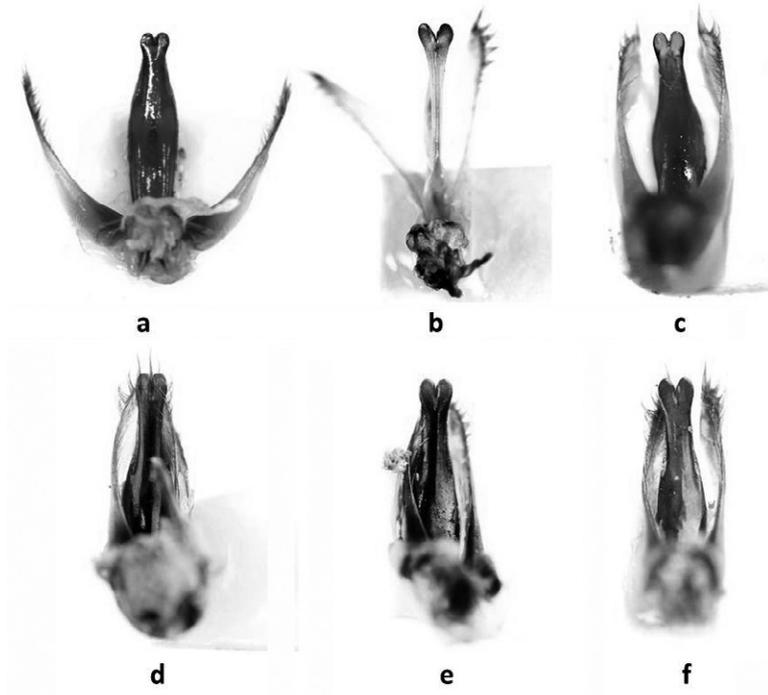


図4. 雄交尾器の比較. a, 西表島産雄交尾器; b, 石垣島産雄交尾器; c, 与那国島産雄交尾器; d, タイ産雄交尾器(阿部コレクション 標本登録番号KPN-NK 027481); e, タイ産雄交尾器(阿部コレクション 標本登録番号KPN-NK 027441) f, 西表島産雄交尾器(通常色個体, 1994年9月8日, 北野忠保管).



図5. 飼育下から得られた黄腹面個体.

雄交尾器の比較

筆者らが採集した黄腹面個体は9個体のうち3個体が雄であったため、それらの雄交尾器を取り出し比較した。また、阿部コレクションに含まれていたタイ産の個体の雄交尾器も取り出し比較した。その結果、本種の雄交尾器は、個体によって形態の変異が大きく、通常色個体との差は確認できなかった(図4)。

飼育下から確認

筆者の一人である北野が教員を勤める東海大学教養学部の研究室で飼育し、繁殖させた個体の中で黄腹面個体が1個体確認された(図5)。本個体

は上記で述べてきた個体と同様、胸腹板および後基節が黄色である特徴を有していた。なお、本個体は、2014年に石垣島で採集した個体から繁殖させたものであり、親個体はいずれも通常色個体であった。本個体は現在、東海大学教養学部の北野研究室で飼育されている。

考察

黄腹面個体は、国内においてこれまで報告例がないことや生息地での個体数が少ないことに加え、国外でも多数確認したフィリピン産やインドネシア産など、東南アジアの島国でも確認されなかったことから、稀な色調変異であることが考えられる。しかし、タイ産のものでは、92個体のうち62個体が黄腹面個体であったことから、タイには黄腹面個体が多く生息していることが考えられる。また、国外における *C. tripunctatus* は、アジア、アフリカ、オセアニアなど熱帯から亜熱帯に広く分布することから、雄交尾器の形態によってアジアの中でも複数の亜種に分類される(Gschwendner, 1931a, b)。そのため、黄腹面個体も国内に分布する *C. t. lateralis* とは別亜種である可能性も考えられたが、上記でも述べたように、黄腹面個体を含め本種の雄交尾器は、個体によって形態の変異が大きく、各亜種の交尾器の形状と比較して決定的な差

は確認できなかった。

現在、本種の色調変異が何によってもたらされるのか不明であるが、飼育下において、通常色の親個体から黄腹面個体が確認されたことから、今後は飼育下における人為交配や様々な環境条件を経験させた場合での黄腹面個体の出現頻度を調べるとともに、通常色個体および黄腹面個体の遺伝解析が必要といえる。

謝辞

東海大学大学院北野研究室で黄腹面個体を繁殖させ情報を提供して下さった村田真一氏には厚く御礼申し上げる。また、本稿をまとめるにあたり、黄腹面個体について投稿することを勧めて下さった阿部光典氏にも厚く御礼申し上げる。

引用文献

- Gschwendtner, L., 1931a. Revision der *Cybister tripunctatus*-gruppe. Entomol. Blatter, 27(2): 65–72.
 Gschwendtner, L., 1931b. Revision der *Cybister tripunctatus*-gruppe. Entomol. Blatter, 27(3): 97–104.
 Hendrich, L. & Brancucci, M., 2013. The genus *Cybister* Curtis, 1827 in Laos (Coleoptera: Dytiscidae, Cybistrini). Entomologica basiliensis et Collectionis Frey, 34: 75–88.
 國本洗紀, 2014. コガタノゲンゴロウの生態(その7) – 腹面の色調の変異について –. ゆらぎあ, (34): 5.
 森 正人・北山 昭, 2002. 改訂版 図説 日本のゲンゴロウ, 231 pp., 文一総合出版, 東京.
 高桑正敏, 1995. 神奈川県立博物館自然部門資料目録 第8号 阿部光典ゲンゴロウ類コレクション標本目録. 神奈川県立 生命の星・地球博物館.

(2016年2月12日受領, 2016年2月27日受理)

【短報】 ツツノミゾウムシを東京都稲城市で採集

本州未記録と思われるツツノミゾウムシ *Orchestes cylindricus* (Morimoto, 1984) を東京都稲城市で採集したので報告する。

1♂, 東京都稲城市東長沼(多摩川河川敷), 18.VII.2015, 阪本優介採集, 伊藤淳保管。

小雨の降る中、河川敷の草地をスーピングして得た。体長2.2 mmで、ノミゾウムシの仲間にしては細長く、両側平行な円筒形の体型が特徴的である。写真を見ていただいた佐々木茂美氏からツツノミゾウムシではないかとの御教示を受け、本種の本記載 (Morimoto, 1984) で確認した。

本種は九州(長崎・福岡・宮崎の各県)の標本で記載され、小島(2008)も分布は九州として、上

記各県の他に鹿児島県と屋久島の記録を挙げている。その後、種子島(Kojima & Morimoto, 2010)と大分県(佐々木, 2011; 今坂・三宅, 2011; 佐々木, 2015)からも記録されているが、筆者らは本州の記録を見出し得なかった。

末筆ながら、貴重な文献や種々の御教示をいただいた佐々木茂美・辻尚道の両氏に厚く御礼申し上げます。

引用文献

- 今坂正一・三宅 武, 2011. 大分県で採集した興味深い甲虫(2008–2010). 二豊のむし, (49): 33–62.
 小島弘昭, 2008. 日本産ゾウムシデータベース. <http://kogane.wem.sfc.keio.ac.jp:16080/jwdb/> (2016年1月17日アクセス)
 Kojima, H. & K. Morimoto, 2010. Record of some weevils (Coleoptera, Curculionidae) new to the fauna of Tanegashima, Japan. Elytra, Tokyo, 38 (2): 161–163.
 Morimoto, K., 1984. The family Curculionidae of Japan. IV. Subfamily Rhynchaeninae. Esakia, (22): 5–76.
 佐々木茂美, 2011. 大分県西部地方の甲虫(2010). 二豊のむし, (49): 9–32.
 佐々木茂美, 2015. 日田地方の甲虫(2014). 二豊のむし, (53): 3–11.

(伊藤 淳 183-0012 府中市押立町 5-1-25)
 (阪本優介 252-0001 座間市相模が丘 1-27-22
 ルネ小田急相模原 モア・ステージ 1201)



図1. 本州産ツツノミゾウムシ雄(左)と雄交尾器(右)。